



政治をあきらめない

4月28日の衆議院補欠選挙が開票され「自民全敗」「立憲全勝」となりました。注目すべきは過去最低の投票率と東京15区で起きた「選挙妨害」です。

「政治と金」の問題について野党に期待するという意味ではないという事が、投票率の低さに表れています。すべての政党は気を引き締めて「求められている政策は何か?」という本質的なところに立ち返るべきです。

そして、「選挙妨害」については、米国の国会議事堂襲撃事件を思い起こさせ、「熟議」から「分断」の社会へと押しやる行為です。

戦前の憲法論議の敗者が「テロ」へと突き進み、政治が萎縮して「戦争」へと傾いて行ったことを忘れてはなりません。

生活者ネットワークは「平和と民主主義」こそが未来への持続可能な社会の礎だという事を肝に銘じて「政治をあきらめない」取り組みをしていきます。

女性の力で世界を変えよう!

先日、哲学者・人類学者の辻信一さんのお話を伺いました。

辻さんは、「今起」っている戦争や気候危機はグローバル化の価値観の帰結で、私たちはもうでない価値観で生きよう」というお話をして下さいました。

また、知の巨人と言われるフランス人のジャック・アタリ氏はNHKの取材に答えて「アメリカが独裁政治に移行する可能性はある」として「世界が真つ先に取り組むべき課題は「気候危機」だ」と言います。

「命の経済」と呼ぶものへの移行、つまり再生可能エネルギー経済の開発、水素の開発、生活スタイルの抜本的な改革。人々が消費を減らす、修理やリサイクルをするなど、生活を大幅に変えることなど、すべてを一つのビジョンに統一し、「命の経済」にまとめることが重要だ」と主張しています。

日本は、GDPの50%以上を「死の経済」によって生み出しており、化石由来のエネルギー、化学製品、化石由来の輸送、プラスチックを含む化石由来の繊維、さらに日本は世界的なプラスチックの排出国で、人工甘味料、工業型農業もある。こうした「死の経済」から「命の経済」に移行することが必要で、それには女性の力が重要な役割を果たしています。

「いま世界を見渡しても、世界を変える最も活発な力は何かといえば、女性の力です。」アメリカ大統領選挙でトランプ氏の勝利を阻んだのは女性です。いまイランで闘っているのも女性です。イスラエルで Netanyahu 首相に對抗しているのも女性です。命のため、あらゆる闘いの最前線にいるのは女性です。女性の活動は、本質的に「命の経済」だ」と女性の活躍に希望を託しています。

限らない成長を追い求めることをやめ、地球と共に生き、命を繋ぐ行動を始めましょう!

女性の力で世界を変えよう!



子どもの声からはじめよう!プロジェクト を応援します。

稲城市では子ども施策の基本となる 2 つの計画の改定に取り組んでいます。「第四次稲城市教育振興基本計画」と、「子ども・子育て支援事業計画」「子どもの貧困対策計画」「子ども・若者計画」等を一体のものとした「稲城市子ども計画」です。

2つとも 2024 年度中に策定、2025 年度からの施行を予定しており、今年度内にあと4回程度の策定のための会議が開かれます。(次回は 7 月頃、教育振興基本計画の議事録、資料は市のホームページで公開され、審議会も傍聴できます)子ども施策の基本となるこれらの計画策定に注目し、また、子ども自身や市民の意見を届けていきましょう。稲城・生活者ネットワークは市民の活動を応援していきます!

inagi 子どもの声からはじめよう!プロジェクト

5月5日(日)「きかせてあなたのきもち」アンケート
手づくり市民まつりに出展

7月23日(火)「子どもの権利ってどんなこと?」
「こども基本法」のもとで自治体が果たすべき役割とは?
野村武司さん講演会

(東京経済大学現代法学部教授/子どもの権利条約総合研究所副代表/
日弁連子どもの権利委員会幹事/中野区子どもオンブズマン)

時間: 午後1時30分~3時30分

会場: 稲城市中央文化センターホール (無料)

8月~12月「届けよう!子ども・若者の声」ワークショップ
ファシリテーター: 林大介さん (無料)

(浦和大学准教授/子どもの権利条約ネットワーク事務局長/
こども家庭庁「多様なこども・若者の意見を聴く在り方及びこどもの意見反映に関する行政職員の理解・実践に向けたガイドライン作成のための調査研究」有識者委員)

主催: inagi 子どもの声からはじめよう実行委員会
後援: 稲城市教育委員会(申請中)
お問合せ inagikodomonokoe@gmail.com

スマホからお問い合わせ→



村上洋子 と おしゃべりタイム

日時: 5月11日(土) 10:30~

会場: 稲城ネット事務所(稲城駅近く、百村 1608-3 サンコーポ 202)

Google meet 併用 meet.google.com/tsg-jbwc-cck

3月議会の報告も致します。どうぞご参加ください。

村上洋子 いきいきレポート



2024年度 稲城市一般会計予算は 過去最高の420億8千万円

コロナ禍での国の様々な交付金によりどの自治体も財政は潤い気味とのこと、稲城市においても同様です。

国の定額減税措置により市税収入は1.4%の減収が見込まれるものの、その分は交付金で補填されるため影響はなく、その他の収入はおおむね増を見込んでいます。

市長の施政方針では「経済活動の回復が進み、個人消費や企業の設備投資の持ち直しが続き、今後も民間需要主導の緩やかな成長が続く」一方で「物価高・資源高騰」も続くと予想しています。

低所得者のみならず一般市民にとっても物価高騰の影響は大きく、定額減税の分は社会保険料の増などによるステルス増税で帳消しになってしまうのではと心配されます。

これらを考慮して、私は同時値上げとなる国民健康保険税と介護保険料のうち、介護保険料の値上げに関する2つの議案に反対しました。市の裁量において改定時期をずらす事ができると考えたからです。しかし、結果は賛成多数で可決となりました。

2024年度当初予算は一般会計予算を含め、その他全ての予算が原案通り採択され可決成立しました。

村上洋子の注目ポイント

- 発達支援センター分室の開設 3,428万円
- 教育相談室分室の開室 4,396万円
- 重症心身障害児(者)等通所施設の開設 112万円
※子育て世代の市民増により需要が増加していた児童発達支援分野の中核として児童福祉法による「児童発達支援センター」が設置されたことは大変重要で、これにより機関相談や当事者・保護者の求めによるきめ細かな助言・対応が可能になるよう期待します。
- 学校給食費物価高騰等緊急対策 臨時負担補助金の創設 4,473万円
※都の補助金を活用し、物価高騰による子育て世帯への負担軽減策として市が給食費の値上げ分を補助することは評価するが、区部や近隣の市でも実施している給食費の無償化について求めています。
- 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(ESD)の拡充 661万円
※2024年度はESD教育の推進として「国連を支える世界こども未来会議 IN AGI」を開催することを評価し、この取り組みが全ての子どもにとって有意義なものとなることを期待します。

- おやこ包括支援として
ファーストバースデーサポート事業 (育児パッケージ) 4,019万円
ファミサポマイスター事業 122万円
※出産から子育てまで切れ目なく支援する施策として評価したい。都の補助金の有無によらず効果を検証し必要なものは継続を望みます。
- 重層的支援体制整備事業の実施 2,901万円
※高齢・障がい・子育て支援など地域における課題と支援を重層的にとらえ対応していく事は重要です。高齢化率が低い稲城市においても高齢者の絶対数は増加しており、その他の多様な課題についても「第四次稲城市保健福祉総合計画」に沿った施策に期待します。
- 市ホームページ全面改修 4,129万円
- 公共施設予約システムの更新 2,064万円
※ホームページや公共施設予約システムがさらに使いやすく、これにより市民参加や利便性が推進されることを期待します。



3月議会村上洋子の一般質問

- 1 災害時の水の確保について
- 2 避難行動に不安がある方の支援について
- 3 インクルーシブ教育等の推進に向けた体制整備について



戦争と平和の記憶 ④

母のヨシは大正9年の申年生まれ。生まれた家は質屋を営み、ヨシの母親は巻紙に筆ですらすらと字を書くほどの教養もあり家事もしないで済むほど裕福だったらしいが、世界恐慌のあおりを受け父親が自死をしてしまう。母親はヨシを連れ実家に戻るが暫くして再婚させられる。

ヨシは連れ子として一緒に行くが、母の実家には年の近い従妹たちが大勢いて、そこが楽しいヨシはその実家を「我が家」として、その後大半を過ごしていたらしい。

10人近くの従妹たちと兄弟のように育ったヨシの子ども時代は、東北の田舎の戦前の自作農の暮らしで、きで父の鉄次の育った環境とよく似ていた。

当時は「尋常小学校」、そのあと経済的に余裕のある者は「高等科(2年)」や「女学校」「高等師範学校」などに行く。「高等学校」から「大学」に進むのはほんの一握りの富裕層だった。

ヨシは尋常小学校を終えると、「女に学問はいらない」という祖父の意向で、地元で

一番の庄屋の家に「見習い奉公」に出される。そこで2年間、みっちり裁縫や料理など家事一般を仕込まれた。そのため、たいいの着物は自分で縫ったし布団も仕立てていた。晩年もみんなに褒められた酒粕と砂糖を贅沢に使う粕漬もこの時に習ったようだ。

ヨシの「尋常小学校」時代、教科書は有料だったので(表彰の賞品が教科書や半紙やノートだったそう)従妹や兄弟で使い回し、「次は〇〇が使うから」と教室まで届けたり、赤ん坊を背負って「子守」をしながら学校にくる子ども当たり前にいたそう。

ヨシの性格はそんな環境で育ったせいかわたし「天真爛漫、順応性抜群」だった。

母親の実家では厳しい祖父が「家父長」として目を配り「囲炉裏に足を投げ出して」と火箸で足を叩かれた「という風だったが、ヨシはそれにめげないお転婆で、叱られた悔しさに泣きながら座敷でおしっこを漏らした話は語り草になっていたらしい。

(次回に続く)

